

# こどもが まんなか いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信

No.8 令和7年3月21日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室  
(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロード  
できます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

## きらきら☆いわてっこ

〈幼児期の終わりまでに育ってほしい姿〉



### 子どもたちの体験を豊かにする自然の不思議

子どもたちは園内外の身近な自然の美しさや不思議さに触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、関心をもつようになっていきます。

保育者は子どもたちを取り巻く自然の状況を把握して積極的に取り入れるなど、子どもたちの体験を豊かにする環境を作り出し、好奇心や探究心をもってみたり触れたりする姿を見守ることが大切です。

#### 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることが大切になる。



0歳児

砂場に座ったA児。眉間にしわを寄せ、手や足に触れる砂を見つめていました。保育者がそばで、さりげなく砂を触って見せました。

気になるのか、だんだん顔が砂に近づいてきたので、保育者が「お砂、気持ちいいねー」と言葉をかけました。A児は握ったり落したり、掌にのせて指で触ってみたりしはじめました。保育者は、A児が砂とかかわる姿を見守ります。



4歳児



5歳児

友達と一緒に運動会のダンスの振り付けを考えていたC児。おひさまに背を向けたタイミングで、持っていたシフォンスカーフの影に気付きました。自分の影とスカーフの影の濃淡の違いに気付き、興味深そうに動かしています。

「見て!おもしろいよ!」自分の気付きを友達にも伝え、影を鏡のように利用しながらダンスの振り付けを考えていました。



子どもたちは園内で出会う様々な生き物との触れ合いを通して、関わり方に気付いていきます。

園庭で見つけた蟻に、興味はあるものの足でつぶしたりギュッと握ったりする姿があったので、保育者が蟻を観察する機会を作りました。いろいろと調べていくうちに動きに意味があることや、好きな食べ物があることを知り、関わり方が変わっていききました。

B児が、捕まえた蟻に「私の作ったうちには大好きな砂糖があるよ」と声をかけていました。

幼児期の自然との関わり・生命尊重は、領域「環境」などで示されているように、幼稚園生活において、身近な自然と触れ合う体験を重ねながら、自然への気付きや動植物に対する親しみを深める中で育まれていく。

こうした幼児期の経験は、小学校の生活や学習において、自然の事物や現象について関心を持ち、その理解を確かなものにしていく基盤となる。さらに、実感を伴って生命の大切さを知ることは、生命あるものを大切に、生きることのすばらしさについて考えを深めることにつながっていく。

# きらきら☆いわてっこ

〈幼児期の終わりまでに育ってほしい姿〉



## 興味や関心を深め感覚が磨かれていく

### 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

2 歳児



白い色水を作って「牛乳」「カルピス」と見立てを楽しんでいました。「いっぱい入れて」「もっと」「もっといっぱい」あふれるくらい入れて「いっぱい」の量を感じ取っていました。



3 歳児

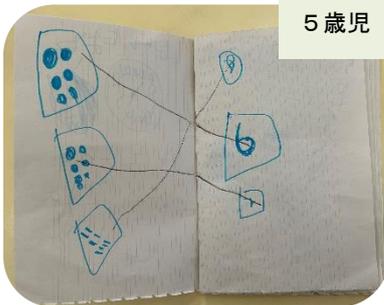
クリスマスの制作  
保育者が描いてくれた線に沿って、真剣にハサミを動かしていました。  
「見て!三角できた!」自分で切った三角形がもみの木になっていきます。  
図形への感覚を土台に、イメージが広がっていきます。



5 歳児



5 歳児



4 歳児



5 歳児



絵本の部屋に線引きパズルの本があることに気付きました。楽しんで取り組んでいましたが、そのうちに自分でも作ってみたいくなりました。

小学校探検に行った後は、ますます数字や文字への関心が高まりました。

もうすぐ年長さんとのお別れ会。  
「10 個つなげる。」  
「じゃあ僕は 11 個」  
「だったら 100 個つなげる。」  
「じゃあ僕は 101 個」  
友達と競い合い、数えながら、会場に飾りつけする輪つなぎを、一生懸命制作中です。

オリンピックやワールドカップなどの影響もあり、国旗への関心が高まっていました。  
園内外の標識への意識は、ピクトグラムのもつ機能の理解にもつながりますね。

お店屋さんごっこの途中。  
「しつれいしました」に相手意識の育ちを感じます。  
ちゃんと、文字には人に思いなどを伝える役割があることに気付いています。

幼児の数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚は、領域「環境」などで示されているように、日常生活の中で、数量や文字などに接しながらその役割に気づき、親しむ体験を通じて育まれていく。

こうした幼児期の数量や図形、標識や文字などへの関心や感覚は、小学校の学習に関心をもって取り組み、実感を伴った理解につながるとともに、学んだことを日常生活の中で活用する態度にもなるものである。

幼稚園教育要領解説 P68 保育所保育指針解説 p78 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P63 から抜粋

県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちのウェルビーイング(幸福)をめざしていきます。